

COG2025 応募内容確認書

ID	58-29-1
自治体名	福岡県北九州市
自治体提示地域課題	既存の地域資源を活用した、観光大都市の実現
チーム名	KitaQDXミライバトンラボチーム
アイデア名	ぬかで沼る北九州市 ~発酵美容ツーリズム~
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	3
代表者	磯谷 慶人
メンバー（公開）	磯谷 慶人, 磯村 光希, 加藤 惺

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

チーム名: KitaQDXミライバトンラボチーム

アイデア名: むかで沼る北九州市

～発酵美容ツーリズム～

該当する自治体名: 北九州市



自治体提示の地域課題(COG ホームページより引用):

福岡県 北九州市 3. まちづくり・交通 7. シビックプライド、観光

既存の地域資源を活用した、観光大都市の実現

本市では、令和7年度予算の重点テーマ「観光大都市への進化」について、来訪者を増やすだけでなく、訪れるエリアを広げ、滞在時間を延ばす取り組みを進めています。

そこで、市が誇る既存の地域資源(自然、食、空き家等)を最大限に活用し、国内外からの観光客を惹きつける「観光大都市」への発展につながる、新たな情報発信や魅力創出の方法についてアイデアを募集します。歴史や文化、自然の魅力を磨き上げ、来訪者が訪れるエリアの拡大に繋がる提案を自由な発想で考えていただきたいと思います。

チーム名の「KitaQDXミライバトンラボ」・・・自分たちで地域を変革(DX)する力を大学生に、という北九州市の事業。単発のデジタル研修にとどまらず、プレゼンスキルやファシリテーションスキル、課題解決スキルなどの向上を目指したプログラムで、市内中高生へのデジタルスキルの習得支援や地域課題解決への挑戦など、実践的な学びの場となっている(COG はプログラムには含まれておらず、研修の成果を活かした自発的な活動である)。



1. アイデアの全体像(What)

1-1. アイデアの概要

本提案は、日本唯一の「ぬか炊き」を生んだ、400年の独自文化を、「発酵美容」の観点から観光資源化した体験型モデル。ぬか床体験を中心として、来訪者の「旅・健康」と北九州市の「文化継承」を同時に叶える、滞在プログラムとアプリを構築。北九州市への宿泊滞在と再訪の必然性を創出し、北九州市の課題である「既存の地域資源を活用した、観光大都市の実現」に取り組む。

1-2. 5W1Hで整理したアイデアの内容

What(何を)

- ① 日本唯一のぬか炊きマイスターによるぬか床教室を含む滞在型・体験型ツアー
- ② ぬか床文化継承アプリ「北九州ぬかのこ」



(①の日本唯一のぬか炊き文化について)

ア 北九州市のぬか床文化とポテンシャル

江戸期から400年以上続く小倉を中心とした発酵食文化であり、家庭ごとに受け継がれ発展。北九州は、単にぬか床で野菜を漬けるだけでなく、サバやイワシなどの青魚もぬかで煮る「ぬか炊き」という独自の料理(日本唯一)を生み出した。

また、北九州の気候が発酵に適するため、乳酸菌・酵素などが豊富で整腸、美容効果が高い。北九州市でも有名なぬか炊き店の女将(70代)は毎日ぬか床を「飲んで」、つやつやの肌と若々しい健康感を保つ。現代の健康・美容ニーズに合致する高いポテンシャルを持つ。

イ 北九州のぬか文化の危機と課題

400年にわたり、家庭内で手入れを重ねる文化が深く根づいた結果、ぬか床は家の味・健康・知恵を象徴する存在となっていた。しかし、ぬか床は毎日の手入れが必要であり、その手間ゆえに継承の担い手不足という危機に直面している。この文化を継承する担い手を確保することが課題である。

(②ぬか床文化継承アプリ「北九州ぬかのこ」について)

「ぬかは自分の子どもと同じ。手をかけてなんぼ。」という70代ぬか床マイスターの言葉からネーミング。北九州の「ぬか床マイスター」たちの知恵を詰め込んだ「ぬか床百科事典」的な面に加え、自分のぬか床の状況を写真入りで投稿することで、マイスターに相談も可能。マイスターは五感の判断ポイントをもとにコメントを返す。利用者全員でマイスターの知恵を共有できる。



Who(誰が) 学生・地域事業者・行政の協働チーム他(3-1 に詳細あり)

Who(誰に) ①対象者(ペルソナ):20代~30代の観光客(特に女性)、健康志向層、発酵文化愛好者
※ペルソナの設定根拠

・文化継承という点で若い世代が適していると考え、20代~30代の男女に「古民家ステイ×ローカル文化体験(ぬか床づくり)に関する Web アンケート」実施。依頼先は男女比半々だったが、回答者の大半が女性(90%)であった。回答しなかった男性に理由を尋ねたところ、「手間暇がかかる」「男性に腸活はささらない(便秘しない)」などの回答。

・また、当初は子どもにぬか床文化体験をしてもらいたいと思い、30代~40代の子持ちファミリー層にもアンケートを実施。回答者(親)の72%は興味があると答えたが、そのうち85%は何らかの不安(衛生面や子どもの安全等)があると答えた。ビジュアル的にも味的にも子ども受けは考えにくく、旅先で食べられないものを食べさせる親の方にも不安があると思われる。

②受益者:対象者である旅行者・ぬか床マイスター・地域事業者・大学生・自治体など。

旅行者は、この企画(発酵美容ツーリズム)に参加することで、ぬか文化継承に主体的に関与する、「新しい担い手」へと変化する。

When(いつ) 通年(ぬか床は春夏秋冬を経験することで安定)

Where(どこで) 北九州市(ぬか床教室／古民家風宿泊施設／夜景・角打ちスポット等)

How(どのように)

○ペルソナの体験プロセス例(デザインシンキング)

★ぬかで沼る北九州市~発酵美容ツアー~友人と二人旅

午前中 北九州市へ移動

●陸(駅)・空(空港)・海(フェリー)の交通結節点にある立地の良さに気づく

13:00~15:00:ぬか床教室(文化と健康効果・美容効果を学び、マイスターの味を実食)

●ぬか床の歴史と奥深さ、他人任せにできない文化に感銘を受け、愛着が芽生え始める

15:00~チェックイン:古民家風宿泊施設(「ぬか床セラー(※)」設置)

●古民家風の調度に心癒されながら、マイぬか床を「ぬか床セラー」にセット

15:30~夜:観光:皿倉山夜景、門司港レトロ、小倉城、食等

●日本新三大夜景の一つである皿倉山、工場夜景、関門海峡夜景を満喫

●角打ち文化(北九州市の立ち飲み文化)満喫。ぬか料理に合う地酒を購入。

翌朝:自分のぬか床で漬けた地元野菜での朝食体験

●自分で漬けた「初ぬか漬け」実食。昨日少し飲みすぎた胃にも丁度良い。

(延泊し古民家を満喫。周辺地域をぶらぶら。世界遺産にも脚を延ばす。)

チェックアウト後、ぬか床を自宅に持ち帰り。帰りの空港で今回の旅を SNS 投稿。

帰宅後:ぬか床生活開始。わが子のようにぬか床を育て始める。





- アプリでマイスターにぬか床相談&コミュニティで愛好者とつながる
- ぬか炊き・漬けを取り続けることでお通じが良くなり、肌荒れも改善。
- 追求すればするほどマイスターの味が恋しくなり、北九州市を再訪してマイスターの味と教え、「追いぬか」を乞う。

2. アイデアの理由(Why)

2-1. 理由のポイント

- ① 北九州市の観光消費額を増やす。日帰り客が多いため伸び悩んでいる。
- ② 北九州市の観光客数を増やす。リピート動機を作ることで再訪者を増やす。
- ③ ぬか文化継承(前述のとおり)

2-2. 根拠と裏付け

①北九州市の観光消費額を増やす

北九州市の観光消費額の増加率は、岡山市以西の政令都市と比べ、約 50~80%低い。観光消費単価の内訳は、①宿泊費②飲食費の順であり、全体の底上げを図るには、宿泊、飲食を伴う誘客が重要。新幹線で1時間以内に広島、博多、熊本などの大都市があるからか、観光客の77%が日帰り(R6 観光動態調査)。なんとか宿泊につなげたい。

	H25(A)	H30(B)	R5(C)	C/A	B/A
北九州市	1,001	1,307	1,004	100.0%	76.8%
広島市	2,011	2,361	3,255	161.9%	137.9%
福岡市	3,357	5,020	6,192	184.5%	123.3%
熊本市	631	735	934	148.0%	127.0%

※岡山市は未公表 出典:各都市の観光統計調査

→(アイデア)ぬか床は漬け込みに一晩かかるため、ぬか床セラーがあることで、一泊しないと味わえない朝食体験が成立

② 北九州市の観光客数を増やす

北九州市の観光客数は、岡山市以西の政令都市の中で唯一減少。観光地巡りのみではリピート動機が形成されづらい。再訪につながる継続的な体験設計が求められる。

→(アイデア)ぬか床マイスターの味や教えを求めて再訪(「夏の管理が難しいから教わりたい」「家族にも食べさせたい」)

	H25(A)	H30(B)	R5(C)	C/A	B/A
北九州市	1,140	1,031	996	87.4%	96.6%
岡山市	563	683	582	103.4%	85.3%
広島市	1,151	1,336	1,230	106.8%	92.1%
福岡市	1,782	2,141	2,309	129.6%	107.8%
熊本市	544	495	563	103.4%	113.7%

※岡山市は延べ観光客数

③ めか文化継承

江戸時代から続く北九州市のめか文化は、手間暇がかかることもあり、北九州市の家庭内でも継承されにくくなっている。北九州市でも有名なめか炊き店の女将(70代)のように、めか床マイスターたちが存在するものの、高齢化により、技術継承が危機的状況にある。

企画案作成当初は、北九州市観光の体験型コンテンツを増やすことに着目し、めか床の品質管理アプリを開発しようと考えた。観光客にめか体験をしてもらった後、めか床は持ち帰りせず、北九州市内で管理し、アプリ保持者に自分のめか床の状態をpH値や色などで数値化してお知らせし、再訪を促すという構想だった。しかし、めか床マイスターの一人、「めか処矢野」の女将(写真)へのインタビューで企画は一変。



女将曰く「めか床の管理は「子どもと一緒に」で、「自分の子どもを全部他人に任せたりせん」という感覚が大切。混ぜる・混ぜないの判断は、五感(匂い、色、香り、味、発酵音)で感知する。自分のめか床が安定するのは春夏秋冬経験してからなので、最低1年、2年目から。技術を習得するのにかかる時間も、子どもとの大事な時間。」

品質管理を、アプリと他人に任せるのではなく、育てる手間と楽しみをサポートする方向に転換する必要がある。この文化継承の大切さをインタビューで実感し、これを残すことこそがアプリの使命と考えた。

→(アイデア)めか床文化継承アプリ「北九州めかのこ」

以上のことから、①日本唯一のめか炊きマイスターによるめか床教室を含む滞在型・体験型ツアーを、20代～30代の観光客(特に女性)、健康志向、発酵文化愛好者向けに企画し、その企画内で活用する②めか床文化継承アプリ「北九州めかのこ」を開発することにした。

3. 実現までの流れ(How)

3-1. 実施主体

○コア運営チーム:

- ・KitaQDXミライバトンラボチーム(大学生)・・・DXで地域課題解決を目指すメンバー。
全体の企画や交渉、アプリ開発、PR(ホームページ作成・SNS・チラシ作成等)を行う。
- ・地域事業者(めか炊き店女将)・・・この事業のアドバイザー、めか床教室運営。

3-2. 実施するための資源(ヒト、モノ、カネ)

●ヒト

・観光客

前述のとおりメインのペルソナを設定し商品設計やPR等を実施。

・市民

北九州市民でめか床文化に興味を持つ人を対象に実証ツアーを行い、市内の文化継承者も育てる。その

後もモニターとして企画のブラッシュアップに協力してもらう。

・古民家風宿泊施設を営む地域事業者

北九州市の特区民泊(※)、Airbnb 等の宿泊施設を運営。

宿泊予約サイトで、「ぬか床教室」をオプションとして選べるようにすること、

ぬか床セラールを置いてもらうことを交渉。

※「自然体験」と「地域住民との交流」をテーマとした民泊を郊外で実施

・地域農家

不揃いや傷モノ野菜もぬか漬けなら「味」になる。フードロス対策として食材提供を交渉。

・角打ち店舗(角打ち:北九州の立ち飲み文化)

ぬか漬け持ち込みOKでの地酒体験を交渉。「角打ちマップ」の作成協力依頼。

・発酵研究者(北九州市立大学国際環境工学部)

発酵食材の研究をしている教授に、ぬか床セラール開発について相談。

・北九州市役所

観光振興、サービス産業振興、DX推進の立場からアドバイス、PR・広報協力を仰ぐ。

・地元 IT 事業者

アプリ運用による負荷・長期的なメンテナンスを考え、実装・運用監修を依頼。

●モノ

・ぬか床文化継承アプリ「北九州ぬかのこ」(開発予定)

・ぬか床セラール(開発予定)

●カネ

・企業協賛、自治体補助金、売り上げ(ぬか床教室+アフターサービス費)、クラウドファンディング

3-3. 実施プロセスとスケジュール

年/月	内 容	(モノ開発)
R8/1~6 企画詳細設計・チームビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ・コア運営チーム(学生)の結成と役割分担 ・マイスター・大学教授へのヒアリング ・目標値の設定(ぬか床教室受講者数、アプリDL数等) ・市役所と連携(PRやデジタル技術) ・ぬか床教室プログラム作成 ・食材提供や企業協賛など金策含め連携 ・宿泊施設へぬか床セラール設置・ぬか床教室プログラム広報等の交渉 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリに落としこむ知識の収集 ・アプリの要件定義~β版作成 ・地元 IT 事業者との連携・実装監修 ・ぬか床セラール仕様決定・調達

R8/7～9 実証ツアーによる 検証 ※ぬか床始めやすい時期	・企画の全体実証を行う ・対象者を北九州市民とすることで、ぬか文化の市内継承者育成を両立(実証後も継続モニターとして協力依頼)	・アプリβ版公開 ・ぬか床セラー実証 ・角打ちマップ作成
R8/10～R9/4 菌が活動しない	・実証ツアーを受け、体制や手段を再検討 ・参加者の「帰宅後のぬか床継続」の問題点の改善	・実証を踏まえたアプリ・ぬか床セラー改善(帰宅後のアプリ活用について実証)
R9/4 末～	正式サービス開始	

3-4. リスクとその対応策

① ぬか床教室・マイスター負担の増加(文化継承者の高齢化)

● リスク

- ・マイスターが高齢であり、体験講座や相談対応が負担になる可能性。
- ・また、文化継承者の人数に限られており、長期的な運営に不安が残る。

● 対応策

- ・マイスターの知恵をアプリに体系化し「負担をアプリで軽減」
- ・地元若手継承者(弟子・ファン)育成プログラムの新設
- ・相談投稿が多いようであれば人数制限を設定し、無理のない運用へ

②アプリ運用による負荷・長期的なメンテナンス

● リスク

大学生主体で開発するため、卒業後に開発者が不在になるリスク。

● 対応策

地元 IT 事業者との連携・実装監修



400年続くぬか床文化を、若い世代と来訪者が共につなぐ仕組み

“ぬかで沼る北九州”は、文化継承と観光の未来を編むプロジェクト